



ふくおか [Good] 農業人100

主な農産物 / イチゴ、アスパラガス、ミカン、キウイ

中村 裕貴さん (27歳)

(営農地 / 糟屋郡新宮町三代)

技術を磨き、目指すは地域で1番の収量

《就農のきっかけ》

実家の新たな経営展開のために就農

地元の専門学校を卒業後、実家がミカン農家であった中村さんは、美容師を職業として選び、社会に出て働きました。技術を磨くこともさることながら、コストを意識した美容院の経営感覚を磨く中で、実家の新たな経営展開を・・・と考えるようになりました。周囲や地元の人から話を聞き、様々な選択肢を考えた結果、自分が美容師をやめてイチゴ栽培に取り組もうと決意したそうです。自ら経営試算した数字を両親に見せながら何度も話し合いを重ねた結果、両親はイチゴを栽培することに了承してくれました。

その年に地元の農家から紹介された飯塚のイチゴ農家へ研修に行き、翌年にミカンのハウスを活用して、イチゴ栽培を開始しました。実家の新たな経営展開のために選んだイチゴ栽培。「色々試算し、様々な選択肢を考える中で、イチゴを栽培することが最善の選択だと判断しただけです。」と中村さん。

《これまでの過程》

研修で培った技術力と人間力

イチゴ栽培をはじめると決めた年から1年間、中村さんは住み込みの研修へ行きました。研修先のイチゴ農家は、その地域の篤農家であり、とても厳しい方でした。両親の農作業など全く手伝ったことなかった中村さんは、研修中に多くの栽培技術を身につけていきました。研修先では技術以外にも、人との付き合い方や生き方等多くのことを学びました。その中で、技術でも生き方でも地域で一番の農家になる事が大切だと教わったといいます「人間としても成長できたと思います。今でも、月に何度も研修先の農家に会いに行き、技術や経営の悩みを相談します。研修先の農家はイチゴの先生でもありますが、人生の先生でもあります。」研修後、実家に戻りイチゴ栽培を開始。1年目はまず10aから作付しました。実際栽培して所得が上がることを確認、2年目には23aに拡大しました。初期投資をなるべく安く抑えるため、ハウスや暖房機などはミカンで使っていたものを使用。ハウスの移設や修繕などほとんど中村さんが父親と一緒にしたそうです。投資を抑えた施設整備により、就農5年目にはイチゴを29aまで



プロフィール

- 家族構成 / 祖父、祖母、父、母、本人、妻、子ども2人
- 前職 / 美容師
- 営農年数 / 約5年
- 耕作(経営)面積 / 60a
- 販路 / JA共販(イチゴ)、直売

拡大しました。

就農当初は中村さんが研修で学んできた技術を、両親に教えながら栽培していましたが、今では、両親と一緒に話し合いながら作業に取り組んでいます。

《これからの展望》

地域で一番のイチゴ農家になりたい

収入が伴わない経営ではだめだと思います。がんばった分だけ儲ける、労働力を投入した分に見合う収入がないと。イチゴは単価が安定しているので、収量を上げることで売上げを伸ばす事ができます。これからは、技術を磨き地域で一番の収量をとることが目標ですね。それと、新しい品目に取り組みたいです。イチゴは冬から春の作物で夏場の収入がありません。新たな品目に取り組み、年間通じた収入を確保したいです。そのため、今は地域の空きハウスを探しています。



Good 成功のためのポイント

事前に就農した場合の経営シミュレーションを行い、収入や経費の数字を確かめる必要があります。儲からなければ就農する意味がない。自分の目指す収入が見込めると分かった時点で、お金を払ってでも、就農を希望する品目の農家に研修に行くべきです。研修を受けることで技術のスタートラインを高い位置に上げられれば、少しでも周囲の農家との技術の差を縮められます。将来、自分の経営に必ずプラスになるはずですよ。